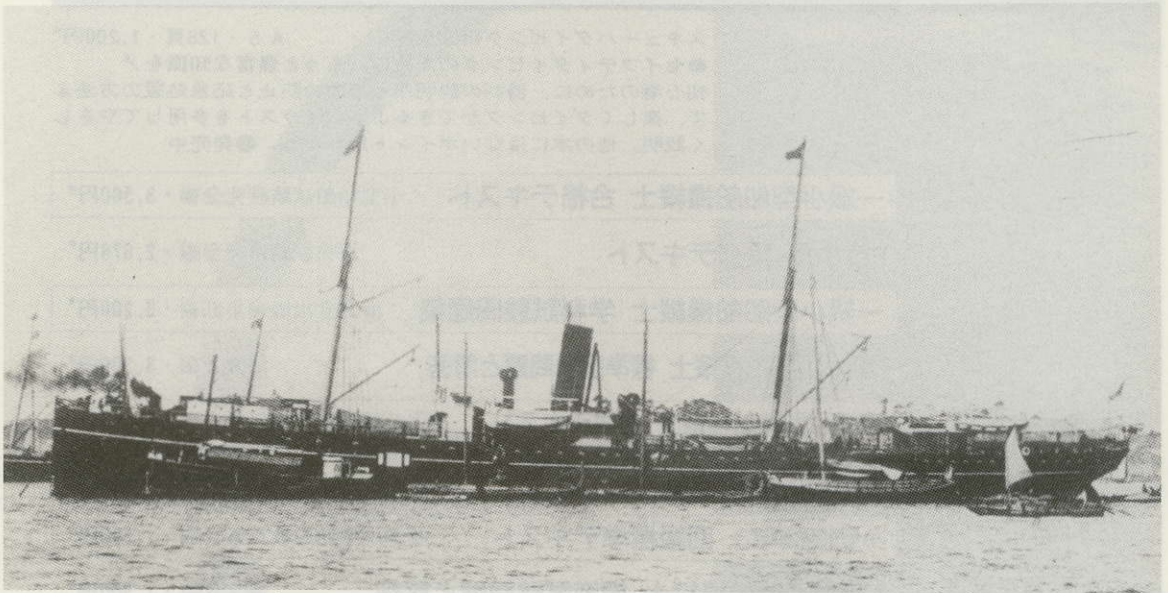


山 城 丸

《主要目》鉄製貨客船、共同運輸所属、2,527総トン、主機コンパウンド1基、出力2,200馬力、最高速力13ノット、1884年英国アームストロング・ミッチェル社建造、姉妹船近江丸

英国の一流軍艦メーカーに発注建造した優秀船



政府支援の巨大会社「共同運輸」

三菱会社とともに日本郵船の母体となった共同運輸のことが、存外知られていない。

この会社は、現代風にいえば、シーパワーへの寄与を目的に設立された船会社であり、その社船は義勇艦に似た性格を持っていたのである。郵船の社史を見ると、同社の設立理由として、①外国船に対抗しうる優秀船隊の整備、②対清国を想定したシーパワー上の必要性、③内外諸航路を独占していた三菱への牽制、の三点をあげている。従来の海運史では、③の三菱への牽制面が強調され、①と②のシーパワーへの貢献をめざした優秀船隊の整備、という側面が見過ごされてきた。

共同運輸は一八八二（明治十五）年七月、外務卿井上馨、農商務大輔品川弥二郎など長州閥の政府高官の主導により設立された。海軍の支援を得るため、経営には海軍軍人が参画することになり、社長に海軍少将伊藤雋吉、副社長に海軍大佐遠武秀行が就任した。つまり今でいえば、外務省、農水省、通産省、防衛庁のバックアップで誕生したようなものであり、ナショナルラインの色彩の非常に濃い船会社だったのである。資本金は六百万円。うち二百六十万円は政府が出資した。

新会社は最初、東京風帆船、北海道運輸、

越中風帆船の三社の所有船を引き継いだが、そのほとんどが帆船であったため、伊藤社長自ら渡英、「山城丸」以下十四隻の汽船を発注し、二隻の新鋭船を購入した。極東の小国日本が先進国英国の造船所で、これだけ大量の船を新造したのだから、向こうの業界でも大いに話題をよんだことだろう。

この思い切った新造プロジェクトにより、共同運輸は一躍、三菱をしのぐ優秀船隊を持つことになった。そして、一八九四（明治二十七年）年の日清戦争では、その相当数が軍用船として活躍した。新会社構想の時点で、十余年後の清国との戦争を予測しているのだから、明治の日本のリーダーたちはすごい。

だが、こうした大量発注は、多額の建造費負担を新会社に強いる結果となり、結局はこれが、経営陣に人を得なかったこととあいまって、共同運輸挫折の原因となるのである。

「共同には船ありて人なく、三菱には人ありて船なし」といわれたゆえんである。

軍艦並みの堅牢商船「山城丸」

「山城丸」と姉妹船「近江丸」は、この英国製船隊中のエースであり、この時期の日本海運界が持った最優秀船でもあった。

建造所はニューカッスルのアームストロング・ミッチェル社。英国の一流軍艦メーカー

であり、明治の日本海軍は同社に、何隻もの軍艦を発注している。戦艦「朝日」「初瀬」、巡洋艦「浅間」「吉野」「浪速」などが、ここで誕生している。商談のために英国へ出向いた海軍軍人の伊藤社長にとって、軍関係筋の造船所と交渉するのは順なことだし、有事の際にシーパワーに貢献する優秀船を建造するという趣旨からいっても、軍艦メーカーへの発注は当然の選択であった。

「山城丸」型が、軍艦並みの堅牢商船であることを示す史料が残っている。経営難に苦しむ共同運輸が、「山城丸」型の海軍省買い上げを願った文書中に、こうある。

「山城・近江の二大汽船を海軍省に買上げられ、平時はこれを会社に貸下げらるること他の貸下船の如くすべし。そもそも山城・近江の両汽船はもともと海軍省のご注文に係わり、その構造、非常の便を重くするをもつて、自ずから商売船に適せざる所あり」（漢文調の原文を筆者が手直したものの）

両船は海軍が発注したもので、軍艦仕様で採算性に乏しい。海軍が買い上げて、当社にチャーターに出してくれ、という内容だ。

山高五郎氏の『日の丸船隊史話』には、両船は最初、「大和丸」「武蔵丸」と命名されるはずだったが、海軍省の指示で「山城丸」「近江丸」に改められたとある。当時起工された

軍艦「大和」「武蔵」とまぎらわしいので船名が変えられた、というのが氏の見解である。両船の有事の軍事機能に、海軍が相当期待していたことが、これでも分かる。

その期待にこたえて両船は、日清戦争では海軍の水雷艇母艦として活躍。さらに、日露戦争では「山城丸」は、海軍給兵船および陸軍軍用船の任務もこなしている。

こうしてみると、「山城丸」は商船らしい実績が全くないようだが、決してそうではない。日清戦争後、郵船が豪州航路を開設したとき、その第一船として就航したのは「山城丸」であった（第二船は「近江丸」）。

中でもこの船の特筆されるべき船歴は、ハワイへの官約移民に携わったことだ。共同運輸時代の一八八五（明治十八）年六月、「山城丸」は、九百八十八人の日本人移住者をホノルルへ送ったが、これは、日本船による本格的移民輸送の嚆矢であった。ハワイ官約移民とは、明治政府とハワイ王国間の協約による移民のことで、同船は、郵船時代にもこの移民輸送に就航し、ハワイ官約移民船では最多の十二航海を消化している。その間に運んだ移住者は合計一万一千九百九十七人。「山城丸」は、移民史の世界では、かなりの有名船なのである。